

主宰紹介

江見悦子 昭和24年3月 栃木県宇都宮市生まれ（現在東京都杉並区在住）

江見悦子主宰は、令和4年4月「万象」の主宰に就任しました。滝沢伊代次、大坪景章、内海良太主宰の後をつぐ4代目の主宰となります。

「万象」は昨年20周年を祝いました。55年間続いた沢木欣一主宰の「風」が終刊したあと、平成14年4月に創刊された「万象」は、ちょうど成人式を迎えたこととなります。

江見主宰は、沢木欣一師の唱えた「即物具象にもとづく写生」を基本に、今まで3人の主宰が掲げた「命の輝きを詠む俳句」「気宇壮大な俳句」「新しみのある俳句」を受け継いでいく覚悟です。

そして原点に戻って「温故知新」を合言葉に、「上手い俳句より良い俳句」を追求するために「万象」誌を通して発信したいと述べています。

主宰交代に際して、編集、経営等に携わるメンバーも一新されました。現在のコロナ蔓延の状況下で、新しい結社経営を目指すことを掲げています。

昭和59年 3月	「風」赤坂句会入会
昭和60年 4月	「風」入会
平成 7年11月	「風」同人
平成14年 4月	「風」終刊に伴い「万象」創刊同人
平成26年10月	「万象」俳句賞受賞
平成28年 4月	「万象」編集人
平成28年10月	「万象」創刊15周年記念評論賞受賞
令和 4年 4月	「万象」主宰

東京都立高校国語科教諭として26年間教壇に立つ。その間、教科書編集委員（明治書院）、「高校生の文芸コンクール」（全国高等学校文化連盟、読売新聞社主催）の俳句部門選者を長年務める。他、杉並区主催の「俳句講座」講師等。

句集『朴の青空』 著書『おじさんは文学通3』俳句編（明治書院）